

# 正月特訓／接続語編

## 問題A

○次の（ ）にあてはまる接続語を、後の選択肢から選びなさい。

わが国で誤解されがちなのは、「自然」ということばである。自然とは人工に對するもので、人間の手が加わらない存在と解釈されるのがふつうである。（ ）

a（ ）それは尊重されるべき好ましいものとされている。

（ b ）人間の手を加えてはならないということをあまり強調すると、変なことになる。天下の名園がそれほど歳月を経ないあいだに、雑草のおい茂った廃園となることは確かであるし、木の枝は八方に伸びて雑然としてくる。そのまま何十年、何百年と放置しておけば、それなりのバランスをもった場所になるであろうが、それまでのあいだは、なんともさまにならないにちがいない。

（選択肢）

- 1 なぜなら
- 2 そして
- 3 しかし
- 4 たとえば

## 問題B

○次の（ ）にあてはまる接続語を、後の選択肢から選びなさい。

ラテン語でも、フランス語でもない、チヨコレート語である。歌集『サラダ記念日』で、日常に即したささやかな愛の感情を、いわば「サラダ語」的さわやかさですくい上げた俵万智さん。それまでの短歌の印象を一変させる大ベストセ

拓殖大



ラーとなった。それから十年を経て、成熟した愛の世界を描いた歌集『チヨコレート革命』が出版されたのが昨年のことだった。

( a ) 「チヨコレート語」とはどんな言語なのか。「男ではなく大人の返事する君にチヨコレート革命起こす」。語源はもちろんこの歌だ。歌集『チヨコレート革命』の後書きで万智さんはこう書いている。「恋には、大人の返事など、いらない。君に向かってひるがえした、甘く苦い反旗。チヨコレート革命とは、そんな気分をとらえた言葉だった」。( b ) 今回の『みだれ髪』の後書き「晶子の匂い」の中でも万智さんが自解している。

「チヨコレート語というのは、そんなわけで、多分に『私っぽい』訳になりました、という程度の意味だ。甘くて、ちょっぴり苦くて、食べすぎはよくないと思いつつ、つい手を出してしまう……そんなふうになっていればいいなという希望も、こめて。」

(選択肢)

- 1 そして
- 2 さらに
- 3 ところで
- 4 したがって

### 問題C

○次の文章は国語学者が日本語の助詞、「が」と「は」の区別について書いた文章です。空欄(1)～(7)に入れるのにもっとも適当と思う語句を左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。ただし同じものを繰り返し用いてはならない。

一般に、話題としては相手の頭の中にあるものを選ぶのが好都合です。

「きょうはいい天気ですね」「ここは静岡県です」

というような「きょう」「ここ」にはしたがって「は」がつくことが多い。「私は暑がりです」とか「あなたは暑くありませんか」というのも「私」というのは相手から見えますし、「あなた」というもの相手自身のことですから「は」をつける。

一方、相手の頭に浮かんでいないことには「は」を使うわけにはいきません。(1)、二人で道端を歩いていて、そのときに鳥がいたとします。(2)、相手はただそれに気づいていないような場合には「あそこに鳥がいる」のように、「が」を使います。(3)、相手にも鳥のことがわかったあとは「は」を使って、「あの鳥はセキセイインコだ」とか、(4)「あの鳥はどこかの家で逃がしたんだ」と言えるわけです。

(5)、子供に昔ばなしをするような場合にも、一番はじめは「が」を使いますね。「昔むかし、あるところに一匹のキツネがおりました」と。キツネが子どもの頭に入ったなと思えば、(6)「そのキツネはたいへん賢いキツネでした」となります。

(7)、おとな相手の小説ですとこうはいきません。たとえば、芥川龍之介の名作『秋』は、「信子は女子大学にいた時から、才媛さいえんの名声を担っていた。」という書き出しで始まっております。もしふだんの会話なら、いきなりこんな言い方をしません。「ぼくの知っている女に信子っていうのがあるんだが」と言って、「が」を使います。そうして「その信子は女子大に……」となるはずであります。小説は極力きりつめた言い方をするので、こういうことになります。

D A  
次は しかし

E B  
たとえば その際

F C  
ですから もっとも

G  
あるいは



# 接続語編 解答

## 問題 A

(解答)

a || 2    b || 3

(解説)

接続語の問題には、必ず選択肢が与えられる。だから、もし迷ったら一つずつ当てはめていけばなんとかなるんじゃない？……というのも一つの(大事な)考え方ではある。

でも、当てはめてみれば「正解かどうか」が本当にわかるのかな。ここはまず、接続語の基本に立ち返って方針を決めよう。

「接続語は前後の論理的な関係を表す」ものだから、

**まずは前後の文の内容をしつかり押さえる**

ことからスタートする。

aの前には「自然とは……、人間の手が加わらない存在と解釈されるのがふつうである」とあり、aの後ろには「それは尊重されるべき好ましいものとされて

いる」と続く。「それ」が前と同じ「自然」を指していることに気がつけば、この部分は次のよう整理できる。どちらの文も同じことについて述べていることに注目しよう。大切なのはそのとらえ方である。

(前) 人間の手が加わらない存在

「自然」

( ) a ( ) ……ここに入るつなぎ言葉は何だ？

(後) 尊重されるべき好ましい存在

選択肢を一つずつ見ていこう。

1は「理由」を表す。前が結果、後が理由というつながりになるはずだが、「から」という文末表現もないし、これは速攻で除外できる。2は「順接」。1と逆に、前が理由で後が結果になる。前が「原因・理由」なんだから、文末に「から」をつけてみてもいい。すると、……おや？なんだか読めそうだ。

ここで、ああできた、できた……と、やめてはいけない。

### 接続語の選択肢はすべて検討する

……のが鉄則である。

「接続語は相対的な正しさしか持たない」ので、**もつとびつたり**するものがあつたら、それが答えになる。あせらないで、次に進もう。

3は「逆接」。前後が反対の意味になるときに使うが、ここは反対とは言えずちよつと無理だろう。4は「例示」。前がまとめで、後はその具体例になっている時に使う。これも、無理があるよね。

以上から答えは間違いないく2だ。

自然は「人間の手が加わらない」からこそ、「尊重されるべき好ましい存在」と見られているわけだ。

次はb。

( ) の後に「人間の手を加えてはならないということ……」とあるのに注目！似た表現が( ) の前にもあったでしょう？

**空欄の前後はつながりに気をつけながらじっくり読むのが、入試問題の鉄則だ。**するとこの部分は、次のようになる。

(前) 自然⇨人間の手が加わらない存在↓尊重されるべき好ましいもの  
( ) ( b ) ……ここに入るつながり言葉は何だ？

(後) 人間の手を加えてはならないことを強調しすぎると変になる。

ここまでくれば、前後で「自然に人間の手を加えないこと」を問題にしているのだとわかる。前では「好ましい」とプラス評価なのに、後ろでは「あまり強調すると、変なことになる」とマイナス評価になっている。どう見ても「反対」のつながりになってるよね。以上からこちらの答えは「逆接」を表す3になる。

## 問題B

(解答)

a || 3    b || 2

(解説)

接続語を選ぶとしても、お互いにかなりまぎらわしい場合がある。

そんなとき答えが二つ、というのはいないから、

**選択肢を比較して、よりよいものを選ぶ**

……ことを考えよう。

aは段落の始めに置かれているから、まずは段落どうしのつながりを考える。前の部分では俵万智の『チヨコレート革命』が出版された話が、後の部分では「チヨコレート語」の意味が取り上げられている。

はて、この二つはどんなつながりがあるのだろうかと悩んじゃダメ。話がずれているとき、または別の面に話題が移ったときには「**転換**」という**選択肢**が考えられる。このような場合が典型的なパターンなので良く読んでおこう。

bはやや難しい。

前の部分では「チヨコレート語」の意味について、俵万智自身が歌集の後書きで触れていることを述べ、後の部分では「晶子の匂い」という別の文章の中でもあらためて自分自身で解説していると述べている。

まとめると、こういうこと。

(前) 歌集『チヨコレート革命』の後書きで触れる

「チヨコレート語の  
意味について」 (b) ……ここに入るつなぎ言葉は何だ？

(後) 『みだれ髪』の後書き「晶子の匂い」の中で自解

実際に代入して読んでみると、どうだろうか？でも2でも(一応)意味が通じるように思えなかっただろうか。実際「そして」も「さらに」も「添加」つけた



し」の意味を持っている言葉である。

では、どうするか？迷ったときはとにかく

### 「違う部分だけ」に注目する

ことから始めよう。

一見同じようにとれる言葉だが、「そして」は単なるつけ足しの意味しか持たないのに対して、「さらに」は次に来るものを強める働きがある。

ここであらためて問題文を読んでもみると、bの前では俵万智の言葉を引いているが（「……甘く苦い反旗。チヨコレート革命とは、そんな気分をとらえた言葉だった」）、後の部分の「自解」の詳しさと比べれば、後ろが強調されていることも納得がいくだろう。

以上から、「後ろを強める添加」の接続語として「さらに」を選ぶ。

「そして」と「さらに」は良く一緒に出題されるので、違いをしっかりと理解しよう。

### 問題C

#### (解答)

1 || E

2 || B

3 || A

4 || G

5 || F

6 || D

7 || C

#### (解説)

接続語は人によって使い方にズレがあるから、自分の使い方にこだわってしまおうとさえって解けなくなる。ここでは、

辞書で引いてみると、どちらも「その上に」という意味になっている。（広辞苑）

A「テレビを買った。そしてビデオも買った」と、

B「テレビを買った。さらにビデオも買った」の違いについて考えてみよう。

Aは単なる事実を述べているだけだが、Bのほうはビデオを買ったことを、なんだか大したことのように言っていないか？

さらには「更に」で、「程度をますますす」なんだ。

## 確実なものから一つずつうめていく

ことを学ぼう。こういう解き方を「消去法」という。

(1) は「〜とします」という仮定する言い方から考える。「仮に」がすぐに浮かぶが、選択肢にはない。じゃあ、どうする？ここで悩まずに、まずは選択肢をじゅんじゅんに代入していこう。すると、「たとえば」は意味が通じることに気づくだろう。実は「たとえば」も「仮定」の意味を持っているんだ。これは確実に正解しておきたい。

(2) は難しい。もしA「しかし」を選ぶと、ここは「鳥がいた。しかし、気づいていない」という流れで読める。B「その際」なら、次の「気づいていないような場合」が言い換えになる。どちらも次の『が』を使います」にかかっていくわけだ。一応どちらも筋が通っているんだよね。だから、決め手は「同じものを繰り返し用いてはならない」という条件を守れるものはどちらなのか、になる。

つまり、

## 接続語の問題は、他の選択肢と比べないと決まらない

というわけだ。

(3) はどうか。これは前(1)相手はまだそれに気づいていないような場合)と後ろ(1)相手にも鳥のことがわかったあと)の「対比」がハッキリでているので「逆接」になるね。ここを確実に決めないと、ドミノ倒しで両方間違っちゃう。

ここが「逆接」なら、(2)は消去法でいくと、Bの「その際」しかない。接

「接続語」は筆者の好みが出やすい部分ではあるね。もちろん、読者である君たちの好みも出やすいわけだけど。

続詞はこうして比べて決める方が、ずっと解きやすいんだ。

(4) は直前に「〜とか」と言われているので、「並列」か「選択」しかない。定番なので、これも確実に決める。

(5) は二つ前の段落で「は」と「が」の区別を述べた後だから、Fの「です」から「を選ぶ」。これは「だから」と同じ「順接」グループだね。

(6) は二つ前の文の「一番はじめは」を受けているので、D「次は」を選ぶ。もつとも、「ですから」も意味の上は入るのでまぎらわしいね。(5)と比較検討して考えないと、こんがらかるよ。

(7) いよいよ、最後。ここまで自信を持って解いてきたのなら、残ったものを答えにすれば良いんだけどね。**ミスのチェックもかねて、きちんと最後まで**解いていこう。前の段落とつなげて読んでみると、「子供の昔ばなし」と「大人相手の小説」が対比されていることに気がつく。すると、ここは逆接の「しかし」か?でも「しかし」は(3)で使ってしまったている……。こんな時はもう一度「しかし」と「もつとも」の違いを考えてみると良い。どちらも「逆接」のグループで、前の部分に反することが後ろに来る。

ただし、「もつとも」は「例外」とも言われるように、「前の話を全面的に否定するわけではない」ところが、「しかし」と違う。流れに注意してもう一度読むと、「子供の昔ばなし」のようには、「大人相手の小説」は「が」と「は」の使い分けが上手くないけどね……。と言う筆者の意見が見えてくる。全体から考えても、(7)以下は「例外」的な使い方だね。



少し大きめの画像・



# 接続語／問題演習編

○次の文の（ ）内にあてはまる言葉を後の選択肢から選んで答えなさい。ただし同じ言葉は一度しか使えない。

## 問題 1

### A問題

「目玉焼き」がメタファーであるといえば、驚く人がいるかもしれない。（ ）  
a 目玉焼きそのものではなく、「目玉焼き」という表現の方である。子ども  
のころからなじんできた食べ物なので、これは文字通りの表現でしかない……と  
思いこんでいたのに、よく見るとそこに「目玉」というんだか生々しい表現が  
はまりこんでいるのに気づく。「目玉」が本当に文字通りであれば、これはもう  
スパルバークの世界である。「目玉」はメタファーでなければならぬ。

「あんパン」や「ジャムパン」は、味もことばの構成も素朴である。「あんパン」  
は「あん」と「パン」、「ジャムパン」は「ジャム」と「パン」との合成にすぎな  
い。（ b ）と同じように素朴な風味の「メロンパン」は、ことばにひねりを利  
かせている。「メロン」はメタファーである。

ジャガイモは、フランス語で「ポム・ドゥ・テール」という。文字通りには「地  
中のリンゴ」。リンゴはかつて果物の女王であった。世のなかには多くのリンゴ  
もどきが存在することになる。フランスのジャガイモはその代表格であろう。ポ

### （愛知学院）

#### メタファー

隠喩。たとえを用いながら、「くよう  
だ」などの形式を出さない表現方法。  
55

ム（リングゴ）はメタファーである。

メタファーとは見立てと考えると分かりやすい。ために「目玉焼き」を『広辞苑』で引いてみると（こんなことにこの辞典を使う人も少ないと思うが……）、「卵をかきまぜずにフライパンで焼いたもの。黄身を目玉に見立てていう」と簡にして要を得た説明——おそらくこの辞典のなかでもっとも美しい記述のひとつ——に出会う。（c）、見立てなのである。同様に、メロンパンはメロンに見立てられ、フランスのジャガイモはリングゴに見立てられている。

## B問題

江戸時代までの夜は信じられないほど暗かった。建物の中にはなにがしかの明かりはあつたから、その光が外にもれる商店のまえは少しは明るかった。しかし、屋敷街は塀で囲まれており、（d）街灯は一切ないのでから、当然のことと闇である。人が一人なり二人なり提灯ちようちんをもって戸外に出れば、その提灯の光だけが点々と見えるだけだった。もちろん一步街を離れば、より完全な闇が待っていた。

真の闇の世界は、捕物帳や剣豪小説、歌舞伎の立ち回りなどによく描かれる。極端な暗さは犯罪や危険と隣り合わせである。しかし、闇は快楽も演出する。真の闇ではないだろうが、闇は恋愛描写や芝居の濡れ場にも出てくる。お化けごっこ、線香花火、蛍狩りなどの背景としても不可欠である。もっと日常的な情景では、暗い夜道を歩くことだけでも、闇の体験の意味があつたのではないか。感受性の豊かな子どものとき、超自然的な生きものに追いかけられるようなこわさを

知ることは、人の一生を夢の多いものにしただろう。ほんとうに真つ暗なところでは、顔のまえに自分の手をかざしても見えない、( e ) 自分の存在が視覚的に認められないのだが、そんな事実も知っているだけで貴重だったのだ。

選択肢 (A・B共通)

- |   |      |   |      |   |      |   |      |
|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | なぜなら | 2 | ところで | 3 | いわば  | 4 | やはり  |
| 5 | もちろん | 6 | しかも  | 7 | ところが | 8 | たとえば |

問題2

時間がたつにつれて、わからなくなってしまう句がある。

古池や蛙飛こむ水の音

この句を初めて聞いたとき、芭蕉という人は、いつたい、何が面白くてこんな句をよんだのだろうと不思議に思った。

古池にカエルが飛びこんで水の音がした——なるほど、一通りの意味はわかる。「自然に閑寂な境地をうち開いている」(山本健吉)といわれれば、そうか、とも思う。( )、芭蕉は何か別のことを言いたかったのではないか。通常の解釈では、芭蕉自身の言葉を借りれば「俳意たしか」でないように思う。

子規は「古池の句の弁」という文章の中で、この句について「古池に蛙の飛び込む音を聞きたりといふほか外、一毫も加ふべきものあらず」といさぎよく書いているが、それだけではなさそうだ。

選択肢

- 1 なぜなら      2 たとえば      3 しかも      4 しかし

問題3

人生といえはすぐ、まつすぐな線のように思い浮かべるくせから離れる必要がある。人生のある時期までは無垢むくで、ある時期から汚れたすというのはうそである。ある時期までは幸福で、ある時期から不幸になるというのもうそである。だいいち、毎日がぜんぶ幸福、ぜんぶ不幸などというのは、きつとたいくつでやりきれないだろう。

勤勉というのはたしかに美德の一つではある。多くのひとが「ワーカホリック」(仕事中毒)といわれるまでに勤勉にはたらく。が、そのモチベーションについては、がちがちの自己解釈を加えないほうがいい。たとえば、満ちたりた将来のためにいままでできるだけがんばっておこうという論理、これは未来の幸福のために現在をとてつもなく貧しくする論理である。そのような論理にしたがつて生きるひとたちは、老いれば老いたで、今日じぶんがあるのは……と過去をふりかえるのだろう。( ) 過去の努力の延長線上にいまのじぶんを設定するのだろう。いつてみれば、じぶんを過去の「実績」から逃げられなくするのだ。

選択肢

- 1 そこで      2 だから      3 そのうえ  
4 ところが      5 つまり

(宮城教育)

無垢

心身の汚れていないこと。純粹な様子のたとえ。



## 問題4

アレクサンドリアの「世界図書館」が開かれたとき、知の領域は二つの方向にひき裂かれようとしていた。一つは汗牛充棟ただならぬ知の量的蓄積であり、もう一つは懷疑主義者やストア派やエピクロス派に代表される人生の知恵であった。もちろん二つがまったく無縁に存在するということはありえず、その間になんらかの世界観の展望があつて、両者をゆるやかにつないでいたことは疑いない。世界は無限に広大であり、人知の巨大な集積もとうてい及ばないという認識があつたとすれば、それが思想家に一種の諦念を与え、好奇心よりも心の静けさを求めさせたとしてもふしぎではない。量的な蓄積といつても、知である以上はなんらかの秩序が必要だし、人生の知恵といつても、ただの第六感でないかぎり、一定度の論理を含まなければならぬ。どちらの側にも、知の体系化に繋がるものはあつたはずである。

(一) 、そこにはプラトンやアリストテレスの時代のように、国家論から芸術論や自然学にわたるような、統一的な知の全体像を積極的に掴もうという情熱は感じられない。イデアという一元的原理ですべてを説明し、知の量をほどよく増やしながらか、同時にそれを文節と構造を持つ体系のなかに置こうという執念が感じられない。そういう知のあり方を否定する意図はないとしても、好奇心はひたすら広がり求めて世界を駆けめぐり、それとは別に、人生の処し方についての内向きの反省が働いていたという印象を与えるのである。

選択肢

(早稲田)

汗牛充棟

牛が汗をかくほどの重さと、棟にかえるほどの量、の意。蔵書の非常に多いことのとえ。

- 1　そこで  
2　しかし  
3　そのうえ  
4　ところで  
5　なお

### 問題5

今日の社会のなかでは、科学者という存在はごくありふれている。むしろ、その存在がないということ自体が考えられない。しかし、今から一五〇年前には、科学者と呼ばれる人々の数は、数えるほどだったし、二〇〇年前には皆無だったと言つてよい。という、直ちに反論があるかもしれない。ニュートンは「科学者」ではなかったのか、ガリレオは、コペルニクスはどうか。ニュートンが死んだのは一七二七年のことである。今から二五〇年あまり前のことだ。(a) ニュートンは「科学者」と呼んでよいのではないか。私は、その反論には「ノー」と答えたい。

何故ニュートンは科学者ではないのか。理由の一つは簡単である。ニュートンはイギリス人であるが、彼は英語で「科学者」を意味するハサイエンティストVという言葉で呼ばれたことは、生涯一度もなかったことが判っている。ハサイエンティストVという単語が英語の中に登場したのは、一八四〇年ころのことで、ニュートンが死んでから一〇〇年以上経っている。そういう呼び名がなかったということとは、その名で呼ばれる実体も存在しなかったということの意味する。

この話はいろいろな方向に広がる可能性をもっている。先ず、(b) ニュートンは何者だったのであろうか、という問があるだろう。それにも比較的簡単に答えられる。彼は哲学者であった。もつとも、ここでは多少の注釈が必要になる。

ここでいう「哲学者」と、われわれが今日その名で呼ぶ存在との間には、かなりの距離がある。ニュートンが哲学者であったという時の「哲学者」とは、言葉本来の意味での「フイロソファー」である。言い換えれば「愛知者」である。ただここでの「知」(c)「ソファイア」は、ギリシャでのそれとはずれをもっており、キリスト教的背景を強く持ったものであった。つまりニュートンの「愛する知」というのは、キリスト教的な神学に裏打ちされた「知」であった。

#### 選択肢

- |   |       |   |      |   |      |
|---|-------|---|------|---|------|
| 1 | だからこそ | 2 | しかし  | 3 | それでは |
| 4 | 同様に   | 5 | なるほど | 6 | すなわち |

### 問題6

パリは、今年の夏は珍しく暑い好天続きである。

(中略)

こういう日が、もう幾日も続いている。パリには珍しいことだ。しかしもうあと数日で秋冷が始まるであろう。一昨日の夕、もう九時だというのにまだ明るいノートル・ダム裏の小さい公園に行つて見た。暑い屋内から逃げ出した人々がベンチに腰を下ろして冷をいれている。橡の若木はもう苗木とは言えないほど成長し、高さは四メートルを優に越え、小さい枝が張りはじめ、つやつやした若葉が一杯に吹き出している。ここでも亦時間が経過している。否、時が成長している、と言つた方がよいかも知れない。そしてそれはこういう植物や動物の成長だけで

(近畿)

はなく、私達の精神にもその生成の経路のようなものとして刻み込まれているようである。( a ) 私達がそういうものを見てこれほど感動する筈がないと思う。私は、自分自身の内部にそういうものを感じる。二カ月前に書いたものを見ると、もう何時のまにかそれを超えてしまっている自分が意識される。それほどいうことなのか、説明するのはむづかしいし、( b ) それは出来ないことであろう。( c ) その変化と成長とは、一つの否定することの出来ない事実としてそこにあり、私は二カ月前に書いたものをすでに批判出来るようになっていく自分を一つの重みを感じるように感ずるのである。そして私は、一つのこと  
が判り、理解することが出来るのは、決して知的面だけの問題ではなく、もつと  
経験全体の変容、その成熟に外ならず、それを確定するものとして知的判断が表  
れて来るのだということを知るのである。そしてそれ以外には、判るということ  
は金輪際ありえない、と感ずるのである。私はそれを「変貌」と名附けたと思う。  
凡ゆる経験は、それが真正の経験であれば、変貌を伴う。経験はある意味で不断  
の変貌そのものである。その意味では、固定化の傾向のある体験と正に對蹠的  
であり、経験は不断の変貌そのものとしていつも現在であり、そこに、人が言葉だ  
けしか知らなかったものが実体として新しく表れつづけるのである。そこに伝統  
と現在、更に将来さえもが真実に結びつくのである。( d ) 人は計画をたて、  
方法を重んじて、目的の実現を計らなければならぬ。しかし本当の認識は、そ  
の行為の過程を通じて、外から明らかに成るものである。

選択肢

- 1 恐らく
- 2 もちろん
- 3 それでなければ
- 4 かし

## 問題7

重苦しい気分のなかで読んだ鴎外は、私に生まれて初めて文学の救いというものを教えてくれた。それは私を鼓舞したり陶酔させたりするものではなくて、むしろささくれがちの感情に冷たい輪郭をあたえて沈静させてくれるものであった。現実の父の死は日々の手違いや小さないさかいの集積であり、いわば崩れ落ちる砂のような心の疲れに私はどう踏みこたえてよいのかわからなかった。だが、作中に現れる死はそういう貧しさを持たない骨太の事件として描かれており、それを見ることによつて私は自分の境遇をもひとつの明確な不幸として耐えることができた。『舞姫』や『阿部一族』と並んで、このとき読んだ翻訳小説が私にはまた最初の外国文学への案内でもあった。死の心理をえぐるように伝えたシュニツラーの『みれん』などは、とりわけ父の枕頭に侍している少年の心に忘れられない印象を残した。

( a ) 父を失つて日本へ帰つた私は、昭和二十年代半ばというなにか浮足立つたような時代に青春を迎えることになつた。世間では戦後社会の民主化がおう謳か歌されるなかで、私はとりわけ自由な校風を誇る京都の高校にはいつたのだが、奇妙にこの青春前期は私の記憶のなかで少しも明るいイメージはおびていない。弟妹二人とともに母の手にかかる生活であつたから、( b ) 経済状態は悲惨というに近かつたが、私の心を暗くしていたものは生活難そのものではなかつた。生涯のこの時期にたぶん多くの人が経験するように、私もまた、自分の内部に頭をもたげるえたいの知れないものに手を焼いていたのである。それは生理的な意味ではなく、( c ) 精神的な意味で、( d ) 雑草のようにはびこつ

(明治)

て来る自分自身の生命力であった。意味もなく感受性が鋭敏になり、生煮えの観念がつぎつぎに頭のなかを駆けめぐっては私を興奮させた。それまで自分に習慣づけて来た生活のリズムもとかく気まぐれに破れがちになり、そしてときたまわれに戻ると、私にはそういう自分の変化がひどくなまぐさいものに見えて耐えがたかった。

選択肢

- 1 あたかも      2 むしろ      3 もちろん      4 やがて

問題8

そもそも権力という言葉は何を意味するか、少し考えてみよう。「権力を手に入れる」とか、「権力の座につく」とか、「権力に抵抗する」とか、「権力の悪用」とか、「権力による弾圧」といった表現が、しばしば用いられてきたし、今でも用いられている。権力とは、何よりもまず、その文字が示すように $\wedge$ 力 $\vee$ なのである。どんな人間も大小の力を持ち、複数の人間が共同してさまざまな力を発揮することがある。( a ) 素手の肉体のもつ力は、 $\wedge$ 生命力 $\vee$ や $\wedge$ 労働力 $\vee$ や $\wedge$ 暴力 $\vee$ と呼ばれることはあっても、決して $\wedge$ 権力 $\vee$ とはよばれない。あるいは武装し組織された力であっても、何らかの法や権利によって裏付けされていない場合は、やはり権力とはよばれない。

一つの力が権力であるためには、その力が法によって、一つの権利として正当化されていなければならない。会社や、町内会、宗教団体のような一つのグルー

枕頭  
まくらもと。

(青山学院)

プの中でさえも、一つの力が権力とみなされるには、( b )、暗黙のうちにてあり決して明記されることはなくても、法や権利に似たものとして力が認知されなければならない。しかし権力そのものを成立させるための法と権利(あるいはその等価物)は、どのようにして法や権利たりうるのだろうか。( c )、一つの国家に反対するゲリラ組織は、自分たちに独自の法や権利を主張し、その組織の内部だけでなく、外部に向けても、自己の^権力^を主張しようとするだろう。この組織の権力が、権力として認知されないのは、彼らの法や権利が^正当なものとして^認知されないからである。なぜ認知されないかというと、彼らが権力を持たないからである。一つの力が権力であるためには、それが法によって権力として認知されなくてはならないが、その法も、法にもとづく権利も、やはり一つの権力によって裏付けられるしかない。

問 空欄 a ~ c に入る最適な語を、それぞれ次のア ~ オから選び、記号をマークせよ。

- |   |        |        |        |
|---|--------|--------|--------|
| a | ア 結局   | イ だから  | ウ そして  |
|   | エ つまり  | オ しかし  |        |
| b | ア たとえ  | イ しかし  | ウ つまり  |
|   | エ まったく | オ もつとも |        |
| c | ア だから  | イ かりに  | ウ たとえば |
|   | エ あるいは | オ なぜなら |        |



